

牛久：学校周辺に見る自然

第13号 牛久二中

2015年11月12日発行

< 二中を守る、ニホンヤモリ >

みなさん、こんにちは。今回は昨年^{きんむ}の写真からですが、牛久二中のヤモリ（ニホンヤモリ）です。私の二中での勤務^{ひとがら}は終了しましたが、U先生の人柄でしようか、生徒がいろいろな生きものを捕まえては理科室に連れてきたことが思い出の一つになっています。



生徒がつかまえて、虫かごに入れられたニホンヤモリ。側面にはり付いている(上)。外から腹側を見る(下左)。裏から見た前足の拡大(下右)。 2014年10月30日撮影



よく混同^{こんどう}されますが、池などにすむ両生類^{りょうせいりい}がイモリ、家屋やその周辺^{かおく}にすむ爬虫類^{はちゅうるい}がヤモリです。

ヤモリが家にいる間は悪いことが起こらないといわれ、家を守るか

ら「家守(やもり)」と覚えておく^{やこうせい}とよいでしょう。夜行性^{しやうめい}で照明^{こんちゆう}に集まる昆虫などを食べます。関東ではすみかに適した古民家^{こみんか}が少なくなったためか数を減らし、各地で絶滅危惧種^{ぜつめつきぐしゆ}になっているようです(茨城県では絶滅危惧Ⅱ類)。ヤモリは今も、二中を守ってくれてるのでしょうか？

ところでヤモリは足ではり付き、ガラス窓も天井も歩いてしまいますね。足の裏^{きゆうばん}の吸盤^{てんじよう}ではり付くと思われがちですが、じつは吸盤^{きゆうばん}はなく、太さ百万分の1mmレベルの細かな毛^{はな}がびっしり生えていて、その毛で付いたり離れたりできることが2000年頃^{ころ}になって明らかになったそうです。それをまねて、「ヤモリテープ」なる優れものも発明^{すぐ}されました。【理科支援員：宮内】